



●新刊紹介 白の図鑑

書名：理想の色に巡り会える・白の図鑑
発行：(株)三オブックス 文庫版 231 頁
監修：橋本実千代
監修協力：園田好江・瀧川優子・三本由美子
発行：2024年6月1日 1,800円+税

橋本実千代学会員監修の三冊目の図鑑で、赤と青に次いで白とトリコロール登場です。文庫本の大きさで、ハードな装丁になっており、赤と青に同じ、「しろいる」「しぜん」「つくる」「ことば」の4章構成になっています。

白を表す54の色名は、なるほどと納得できる選択で、そのなかの「白の配色」は白ならではの試みでした。

「しぜん」は「雲」が印象的です。我々は白い雲に囲まれて生きていることを思いおこさせます。そのほかにホワイトタイガーも素敵です。

「つくる」の最初に「タージマホール」が登場するのも印象的です。日本の建築物で白い大理石を使った古いものは無いために。憧れがあります。

「ことば」の章では、世界の各国語の「白」を紹介している構成に感心しました。

今後、各国語での基本色名の紹介は欲しいと思いました。
(永田泰弘)

●提案：「色、回想」の原稿募集

日本色彩学会に所属されて、色彩関係の研究や、教育活動、色彩調査、撮影旅行、学会で学んだことなど、多くのご経験がお有りのことと存じます。

このところ、「色彩教材研究会通信」の内容の変化が乏しく、申し訳なく思っています。

皆様の色彩に関する体験や、思い巡らした事柄をまとめて、「色、回想 ○○○○○」とまとめて投稿していただけますか？

文章は20字24行以内でまとめてください。文章のみを歓迎しますが、写真が必要なら一枚までにして、文章を減らしてください。

数編の続きものにしていただければ、大歓迎です。2月29日配信の379号に掲載した、私の「我孫子ビレジの外装色彩」を参考にさせていただいても結構です。最近、数回に分けて掲載しました私の友人の小川梓さんの「色、回想」も参考になります。

こんな形で、自分の過去の歴史を振り返ってみることも面白いと感ずることができれば、幸せかもしれません。

皆様の多くの色彩関係の実績の中から、選んで文章にすることにより、役立つことも多々あるやに思えます。躊躇しないで、軽い気持ちで投稿してください。
(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 62ーく

グリーン：緑色。草地。緑地。芝生。ゴルフ場のホールの周囲。

栗梅：くりうめ。染め色の名。紫がかった栗色。

栗皮色：栗の実の皮に似た色。

栗皮茶：栗の実の皮のような赤黒い色。

栗毛：くりげ。馬の毛色の名。地色が黒みを帯びた褐色で、たてがみと尾が赤褐色のもの。

栗鼠：くりねずみ。リスの別名。栗鼠色の別名。馬の毛色の名。

栗鼠色：栗色を帯びた鼠色。

栗駮：くりぶち。馬の毛色の名。栗毛のぶちのあるもの。くりげぶち。

胡桃色：くるみの樹皮で染めた薄い褐色。襲の色目の名。表は香色、裏は白。紙の色の名。クルミの実に似た薄茶色。

紅：くれない。くれ(呉)のあい(藍)の音変化。鮮明な赤色。特に、紅花の汁で染めた色。ベニハナの別名。末摘花。香の名。伽羅の一種。

紅色：鮮明な赤色。くれない。

紅威：くれないおどし。鎧の威しの一。紅色のなめし皮や糸などでつづり合わせたもの。緋威。べにおどし。

紅菊襲：襲の色目の名。表は紅、裏は青。秋に用いる。

*大辞泉：小学館発行国語辞典

(永田泰弘)